

令和6年2月8日

世田谷区立船橋希望中学校
校長 菅野 茂男 様

世田谷区立船橋希望中学校
学校関係者評価委員会
委員長 木野村 雅子

令和5年度 学校関係者評価結果報告書

学校関係者評価委員会において「学校評価システム」に基づき、関係者アンケート調査の結果の分析や自己評価の結果及び日常の教育活動・校外学習等について総合的な評価を行い、以下の通り報告書を作成いたしました。

今後の教育活動及び学校運営にご活用いただき、船橋希望中学校（船橋希望学舎）がより一層発展されることを委員会一同、祈念いたします。

◇関係者アンケート調査結果の分析の観点と評価について

- 1 「とても思う」「思う」の割合の合計を「肯定的評価」と捉えた。
「肯定的評価」の割合が、生徒は70%以上、保護者は60%以上の項目を、「評価が高い項目」とした。また、生徒は80%以上、保護者・地域は70%以上の項目と、「とても思う」の割合が30%以上の項目については「特に評価が高い項目」とした。
- 2 「あまり思わない」「思わない」の割合の合計を「否定的評価」と捉えた。
「否定的評価」の割合が、生徒・保護者・地域ともに25%を超える（4人に1人が否定的）項目を、課題のある項目とした。また、40%を超える項目や「思わない」の割合が20%程度の項目について「特に課題がある項目」とした。
- 3 「分からない」の割合については、25%を超える項目に注目した。
「分からない」の割合が多い原因を検討するため、生徒については、校長・副校長及び教職員に意見を求めた。また、保護者については、アンケートの「記述式のまとめ」や保護者会等での資料など、学校の広報の状況を参考にして分析した。
- 4 船橋希望中学校の前年度アンケート調査と比較して検討すると同時に、コロナ禍である状況も踏まえ検討した。
本校の目標や達成するための取り組みを適切に評価するため、アンケート集計結果の分析については、以下の3点で評価した。
 - ① 基本的には昨年度のデータと比較検討し、昨年度と同様、上記の規準により評価した。この報告書のカッコ（ ）内の数値は、昨年度の数値である。
※緊急事態宣言や感染予防対策により教育活動が計画通りに実施されなかった部分など、評価にあたり考慮した。
 - ② 生徒は80%以上、保護者は70%以上の「評価の高い項目」であっても、「否定的評価」の割合が25%を超える項目については、「課題のある項目」と捉えて分析した。
 - ③ 学年ごとの生徒と保護者の評価については、「学年進行」を考慮した比較検討も行った。比較検討を行った場合、前年度1年生のデータは<1年=>と表記した。同様に前年度2年生のデータは<2年=>と表記した。

◇アンケートの回収率について

アンケートの回収率については、生徒 86% (96%)、保護者 66% (55) %、地域 50% (33.

3%)であった。

生徒は、10%ほど昨年を下回る回収率であった。生徒の回収率については、不登校生との回収方法の工夫なども含め、限りなく100%に近づくよう、生徒へのアプローチを検討されたい。

保護者は、昨年度に比べ回収率が11%高い数値となった。タブレットでの回答となり、環境や操作他若い世代の保護者にとって回答しやすい状況があったのではないかと推察する。

地域は、数年にわたり地域関係者への配布先の見直しを行い、本年度は約半数の回答が得られている。回答依頼や回収方法のさらなる検討が望ましい。70~80%の回収率を目指し努力されたい。

本年度は5月にコロナ関係の縛りが解除され、学校行事はほぼ予定通り開催できた。

安全・安心のため、昨年同様マスク着用、「密」を避けるなど、学習環境を整えた。保護者や地域の方の生徒の姿を見ていただく機会や来校の機会は通常にもどっている。

今後の社会状況を視野に入れ、地域に学校教育へどのように参画してもらうか、また、関係者の意見を吸い上げる方法などの工夫改善が必要である。

【評価項目に沿った評価】

◇関係者評価・教職員の自己評価等を基にした本校の成果と課題

I 重点項目への取り組み成果と課題

1 生徒に学ぶ喜びを感じさせることができている。

生徒アンケート「学習について」では、全学年、各項目とも肯定評価（とても思う・思う）が90%以上であり高い評価である。生徒が学ぶ意欲をもち、真剣に取り組んだ成果と捉える。また、教師側の授業への熱心な取り組みもあってのことと推察する。一方で、「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の項目では2学年が72%、また、「先生は、提出物やテストなどをわかりやすく評価している」の項目では、3年生が70%と上記を下回っている。また、8-（4）「私は、主体的に学習に取り組んでいる」の項目では、高い評価が全学年とも80%を下回っている。

板書やプリントの工夫、また、生徒への十分な説明や評価方法などの提示方法について工夫改善し、「主体的な学び」と「学ぶ喜びを感じさせる」ことに結びつけることが課題である。

2 認め合い、励まし合おうとする生徒を育てている。

生徒アンケート「私は、友だちなどの他人の人たちを、認め合い、励まし合おうとする気持ちがある」の項目においては肯定評価92%であり、「私は、深く考えて行動しようとする気持ちがある」同82%、「私は、磨き合い、高め合おうとする気持ちがある」同81%と、高評価であり目標は達成されている。生徒は他者とのかかわりを大切に、その中で対話的な学びを習得したり、自分の考えを伝え広め深めていこうと努力している。

3 健康に関心をもち、体力の向上を心がける生徒を育てる。

生徒は、年度当初から感染予防に気をつけ学校生活を送ってきた。そのような中で、学校行事において生徒は90%以上の生徒が「とても思う」「思う」と回答している。生徒各自が健康管理に努め、体力向上を目指し、懸命に取り組む達成感を味わったことが伺える。

4 「私はN I EタイムやN I Eコーナーにより、新聞への興味や自分の考えをもつようになった」において、肯定的評価は41%（63%）であり、昨年より下回っている。

学年ごとに評価に差があることから、学校全体での共通理解のもとに進める必要がある。

各教室や廊下に何気なく置いてある新聞は目にとまっているが、学校生活の目まぐる

しい中、手に取りゆっくり読む時間が取れないのかもしれない。意識的に各教科で新聞活用の推進を図ることにより、N I Eへの生徒の認識が深まる。ひいては言語活動の充実、仲間との交流などにも結びつく。さらに推進されたい。

II 地域との連携・協働による教育の成果と課題

1 保護者・地域連携

「地域との連携について」保護者「11」で評価した。

本年度も、保護者会等開催の形状が通常となったが、保護者の評価「わからない」では項目(1) 26%、同(2) 26%、同(3) 33%と約3分の1であった。一方で、「とても思う」「思う」の評価は(1)～(3)の各項目で60～70%前後の評価となっており、高い評価である。

これについては、ホームページでの発信やタブレットのアンケートなどにおいて、大人の(保護者の)ICT活用の状況把握が必要と思われる。機器が手元にあっても活用しづらさ(アンケートなど)があるなどが考えられる。

今後、どのような状況であっても発信し教育活動が双方向で共有できるよう校内でさらに検討されたい。

地域においてはお年寄りも多く、情報機器に精通している方は多くはないであろう。そのような中、紙媒体による発信は効果的である。学校としては手間もかかるが、学校だよりに加え、行事だよりのような発信も有効と考える。

日常の地域とのかかわりがあってこそ連携が図ることができる。いかに積極的なかわりをもつかが課題である。

2 地域運営学校(学校運営委員会)

地域「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」で評価した。肯定的評価は66%であった。学校や保護者から関係者に「学校運営委員会だより」や「学校だより」を直接届ける、あるいは、生徒が訪問するなどアイデアを出し合うなど検討されたい。

3 学校協議会等

地域との連携について、保護者11(2)「本校は、地域の活動などに協力的である」66%、同11(3)「本校は、地域に情報を提供している」において、肯定的評価59%、また、地域「学校協議会は活動を周知し、役割を果たしている」では肯定的評価67%、「わからない」が22%であった。なお、本年度は開催されていない。

今後、相互の意思疎通や活発な活動とするための、現状を踏まえた会の在り方、連携方法、メンバーなど検討されたい。

4 P T A活動

船橋中と希望丘中が統合した船橋希望学舎・船橋希望中学校は創立12年目を迎えた。両校の伝統と実績に裏付けられたP T A活動は、各種委員会、各種行事等、教育環境充実のための工夫・改善や地域人材の積極的な活用に努め、積極的・協働的な活動を展開している。

8(1)「本校は、様々なたよりなどで、保護者に情報を提供している」については肯定的評価92%の高評価であり、学校に関心をもち活動していることがわかる。

本年度は、青少年健全育成関係の行事や地域行事の活動が復活しつつあったが、通常

とはいえない状況と捉える。様々な社会環境を踏まえた上での諸活動実施形態などを見直しつつ、保護者・地域の声を学校運営に生かした活動を期待したい。

5 家庭教育支援

保護者「11. 地域との連携について」で評価した。

9 (1) ~ (3) の各項目とも 60%前後が肯定的評価である。その反面「わからない」がどの項目も 25%前後であり、発信において工夫が必要がある。

地域において「お祭りや子どもぶんか村の発表会、地域防災への参加など、地域活動やボランティア活動に関心をもっていると思う」では、73%が肯定的な評価であり、学校や生徒たちへの期待が大きいことが伝わってくる。

この社会状況下、地域行事などの減少はあるものの、徐々に活動を復活し、どのような展開が可能か模索しながら、創意工夫のもと進めていくことが課題である。

III 「キャリア・未来デザイン教育」で実現する質の高い教育の成果と課題

1 教育課程

学習指導要領・世田谷区教育要項に基づき編成し、生徒の資質・能力の伸長に努めている。また、生徒・保護者・地域・教員に共通理解され、各教科等の年間授業時数の確保と管理が適切である。

2 教育目標

「知・徳・体」の調和のとれた豊かな人間性の涵養を目指し、人格形成を図る教育について、本年度は紙面にて生徒及び保護者・地域にわかりやすく説明し、周知を図っている。教育目標の具現化を目指し、生徒は、「8. 重点目標および数値目標について（独自項目）」のうち、学校教育について（1）「私は、友だちなど他の人たちを、認め合い、励まし合おうとする気持ちがある」92%、（2）私は、深く考え行動しようとする気持ちがある」84%、（3）「私は、磨き合い、高め合おうとする気持ちがある」83%で、全般的に「特に評価の高い項目」といえる。

この結果から、教育目標の周知と定着への取り組みについては、確実に生徒に浸透しているものと考ええる。

保護者及び地域については、学校便りをはじめ組織的に「学年だより」（各学年とも週1回発行）や、ホームページ等で広報活動に取り組んでいる。

また、校長講話をはじめ教職員の生徒への日常生活や特別活動の働きかけ等の取り組みにより、「教育目標」を3年間で身につけさせようとする教職員の意気込みが伺われる。教育目標達成に向け、さらなる努力を期待したい。

3 学習指導

生徒及び保護者は「1 学習について」の5項目で評価した。生徒・保護者共に「評価の高い項目」であった。

生徒の肯定的評価は「（1）先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」93%、「（2）先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」90%、「（3）授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」94%、「（4）映像やタブレットなどのICTを利用し、わかりやすい授業をしている」93%、「（5）先生は、提出物やテストなどをわかりやすく評価している」84%であり、どれも90%を超える「特に評価の高い項目」であった。教職員の自己評価も高く、日々の実践を通し、多様で質の高い学びを個々の生徒から引き

出すことを意図した授業を目指し、工夫改善した成果である。

一方で、学年ごとで差がついた項目として（５）が挙げられる。１年生が９９％肯定的評価に対し、２学年７９％、３学年７０％に留まった。

テストなどの評価においては生徒との信頼関係を崩さぬためにも、生徒が納得できる説明をしなければならない。教科は様々だが、生徒への理解のさせ方など校内で統一・共有するよう検討が必要である。

提出物やテストの評価について、少数ではあるが否定的評価もある。丁寧な説明や評価方法の明確化を目指されたい。

保護者は全体的に肯定的な評価であるが、「（２）本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の項目では「わからない」が３１％であった。保護者が「なるほど」と理解してもらえる発信が必要と感じる。また、家庭でのタブレット使用状況などを学校として把握することも重要と考える。保護者会の折にタブレットについての説明を加えることも検討されたい。

4 生活指導

生徒及び保護者とも「生活指導について」の項目で評価した。

生徒はどの項目とも肯定的評価が８０％を超え、特に高い評価である。生徒はルールを守り、教師の指導に納得し学校生活を送っている様子が伺える。

また、思いやりの心にあふれ、現在の学校生活に満足し誇りと自信をもって行動していることが伝わってくる。

教職員の自己評価からも、日頃から生徒一人一人に寄り添い、自覚や生活ルールなど、きめ細やかな指導を実践していることや、生徒自身の規範意識の高さが、評価の高さに結びついていると考えられる。

教育相談活動については、生徒が安心して学校生活を過ごせるよう、教育活動全体できめ細やかな指導が大切である。「（２）先生たちは生徒が相談しやすいか」について、１年７３％、２年５８％、３年６９％が肯定的評価であった。学年差がより少なくなるよう、また、全体が８０％以上の生徒が「相談しやすい」環境となるよう、生徒が希望する先生との面談企画をすることも含め、相談体制をひと工夫することが必要である。

保護者同質問５（２）において、１年７５％、２年６５％、３年７７％であった。コロナ禍を過ぎたものの保護者と対面し話す機会は少なかったことと推測する。３年は進路関係での個人面談他、教員との話し合いの機会があつての評価と捉える。電話連絡、たよりなど、信頼関係を気づくためにも対面できる機会を多く設定できるよう工夫されたい。

地域は、肯定的評価が高く、地域での生徒の状況は極めて良好である。「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」では１００％の肯定的評価であり、生徒を見守っていることが伝わってきた評価である。

教職員は、「誠意をもって対応している」１００％の肯定的高評価に対し、「地域行事にできる限り協力をしている」、約７３．３％の肯定的評価に留まった。校務の多忙さや地域行事の中止に伴つてのことと推察する。

5 道 徳

「対話的で深い学びの実践」をテーマに様々な人々とふれあい、協働の中から解決策を見出すアクティブラーニングの視点から授業の充実を図ることができた。

次年度は、道徳地区公開講座において保護者や地域の参加や内容を吟味し、対面での

意見交換などを是非取り入れてほしい。

6 特別活動

学級活動、生徒会活動、学校行事など、キャリア教育や進路指導と関連付けた計画である。本年度はかなり復活したと見受ける。生徒が充実感を味わえる企画などを学年ごとに準備している。

様々な状況ではあるが、行事をすべて復活していくことが大切である。

7 学校行事

行事が復活し、運動会や合唱コンクール、百人一首大会を開催、また、各学年・学級行事を企画し開催できたことは、教職員の努力の賜物である。

「3(1)学校行事は、楽しい。(2)学校行事は、達成感がある。」の項目において、全学年とも90%以上の生徒が肯定的高評価であった。全校生徒が意欲的に取り組み、充実感を味わえた評価ともいえる。

保護者についても、「3 学校行事について」の3項目とも高い評価であり、子どもの姿をよくとらえ、学校への協力があったことと推察する。

行事開催にあたっては、安全・安心を心がけ、どのようにすれば実施可能か知恵を出し合い、生徒が皆「学校が楽しい」と感じる教育活動の継続を期待したい。

8 体育・保健教育・食育

学校教育全体で計画的・継続的・組織的に推進できた。生涯にわたり心身の健康を保持増進する資質、食育の大切さなど、全教育において効果的に行われるよう、今後も配慮し推進していただきたい。

9 キャリア教育・進路指導

生徒は「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある」86%、「進路や将来の仕事に対する情報を提供している」73%であり、肯定的評価であった。教員からの情報発信も功を奏したものとする。

一方で「キャリアパスポートに書いた目標について、考えて行動している」は52%の肯定的評価に留まった。小中と連携してのキャリアパスポートの指導内容・方法について、小中連携を図る、全教職員でその在り方を認識するなど、学校組織としての指導体制を検討することが望ましい。

10 特色ある教育活動

船橋希望学舎の教育目標・重点項目に基づいた教育活動が適切に行われている。

生徒に向けてのNIEに関連する項目「8 重点項目および数値目標について(独自項目)」「(8)私は、NIEタイムやNIEコーナーにより、新聞や興味や自分の考えをもつようになった」では、肯定的評価が全体で49%であった。昨年より7%意識が薄れてしまったと見る。新聞活用法について教員が共有し指導にあたることも視野にいれ進んでいきたい。

深い学び、主体的・対話的学びの向上にも結びつくNIE教育をさらに充実されることを期待する。

11 特別支援教育

インクルーシブ教育の推進に向け、多様性を尊重する態度の育成や支援が必要な生徒たちとの交流など、共同学習の場を多く設けてほしい。

特に、特別支援教室「すまいるルーム」の活用・推進については、特別支援コーディネータを中心に全教職員がその概要や生徒状況を把握し、適切な利用時間や的確な指導に結びつくよう、また、周囲の生徒が温かく接することができるような環境整備をお願いしたい。

12 部活動

「楽しい」の項目において、全学年生徒 83%・保護者 81%、共に肯定的評価である。また、「達成感」においても、生徒 84%、保護者 81%とも肯定的高評価であった。

徐々に部活動もコロナ前にもどりつつある。生徒が生き生きと活動する場の復活を願う。

IV 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

1 学校経営・学校運営・「学び舎」による学校運営

保護者は「9 学校運営 (1) ~ (4)」で、地域は設問全域からを参考に評価した。学校経営・学校運営について、保護者は「(1) 本校は、保護者に指導の重点を伝えている」が全体で 67%、「(2) 本校は、教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる」では同 66%と肯定的評価であり高評価となっている。一方で、「(3) 本校は、地域に情報を提供している」の項目では肯定的評価が全体で 61%であった。本年度はどの学年も 60%以上となった。さらに肯定的評価が増すよう、双方向での意志の疎通を図るなど、年間を通して発進し続ける必要があることが課題と捉える。

今後も全教職員が一致団結、協力のもと、生徒への教育活動を展開してほしい。

2 学校評価

評価に必要な情報や配布物等適切に提供され、保護者や地域との連携・協働による学校行事や協議会を通し、教育活動への意見を効率的に取り入れている。独自項目では、教育理念を踏まえた生徒たちの学びの充実も図っている。項目についてさらなる検討をされたい。

3 教職員

生徒は「5 先生について (1) 先生たちは、生徒にいていねいに指導している」の設問に対し、全体で 89%の生徒が肯定的高評価である。また、「同 (2) 先生たちは、生徒が相談しやすい」の項目において、77%が肯定的評価であり、高評価であった。

保護者は「5 教職員について (1) 丁寧に指導している」において、全体 89%が肯定的評価、「5 (2) 本校は、子どもや保護者が相談しやすい」においては同 66%が肯定的評価であったが、2年は 57%に留まっている。

生徒・保護者とも、本校の教職員に対し信頼感をより一層もってもらうためにも、いつでも相談にのれる体制づくりや学校側から保護者への声がけなど、校内での検討課題として捉えていただきたい。

4 研修・研究

数学・英語では少人数習熟度別授業、音楽・美術でのチームティーチング授業に取り

組み、該当教科において効果的授業を展開している。

また、CM（カリキュラムマネジメント）スクールとして、「学び舎」研究会や校内研究会を通し、生徒の学ぶ意欲の向上と教員の授業実践力を高め、質の高い授業を提供することができた。また、持続発展教育としてのN I E教育への積極的取り組みによる生徒の変容など、高く評価される。

5 保健・衛生管理

ほぼ予定通り、学校保健の年間指導計画に則り適切に行われている。

保護者「10 学校の安全性について（1）本校は、安全な学校づくりを進めている」の目では、全体で83%が肯定的であり高評価である。学校環境・学校給食においてもホームページに掲載するなど、安全確保に努力していることが認知され評価が高い。また、食物アレルギー対応についても丁寧に説明、対応している。次年度も継続しての衛生管理に努めていただきたい。

6 安全管理

保護者は「12 学校の安全性について（1）（2）（3）」で評価した。

保護者は全体で「（1）本校は、安全な学校づくりを進めている」「（2）本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」とも全体80%が肯定的評価である。また「（3）本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」では、全体70%が肯定的評価であった。予期せぬ災害にも落ち着いて行動できるよう、教育活動での安全面は重要事項である。年度当初、特に新入生と保護者には説明が必要である。

地域では「学校は、安全・安心な学校づくりを進めている」「学校は、安全性を高めようと地域と協力している」の2項目における肯定的評価である。保護者・地域とも高評価であり、学校への安全に対する評価は高い。避難訓練や災害時の保護者・地域との協力体制についてさらに改善し、危機管理マニュアルなどの活用と徹底を図ることを願う。

7 広報活動

広報活動・情報提供についての評価は、保護者8（1）「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」において92%が肯定的高評価、地域では学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子がわかる」の項目において88%が肯定的評価である。

今後も学校便り・学年便りのほか、各行事や小学校との交流の話題などの情報を、積極的に発信・配信すると共に、ホームページの内容充実を図り、さらなる情報提供を期待したい。

8 出納・経理

教育活動の具現化を目指し、教育活動を支えるための条件整備、改善を基本として適正化、効率化を一層充実させることを目標としてきた。

予算的執行計画の策定・予算管理、契約等・物品管理・給与、旅費、福利厚生・就学援助事務等、適時適正および正確迅速に努めた。予算執行状況の報告を計画的に進めていただきたい。

9 文書・情報管理

個人情報管理、文書管理を適正に行うとともに、文書の進行管理を正確適正に行い、

遅延防止に努めている。

V 安全安心と学びを充実する教育環境の整備の成果と課題

<施設・設備について>

学校の安全性については、保護者・地域とも高評価であった。施設・設備の安全性の確保に加え、教育環境としての整備が進んでいる認識が保護者や地域に浸透している。

様々な感染予防対策として、教室および学校全体に関係設備が整備されるよう配慮し、教育活動の充実を図られたい。

VI 学校生活全般の成果と課題

Ⅲの項目の各アンケート結果から、学習、生活面、学校行事、部活ほか、どの項目も肯定的評価であり、教育目標の成果は大きいと推察する。その中で、「1 学習指導について(5)「先生は、提出物やテストなどをわかりやすく評価している」では79%が肯定的評価ではあるが、その他の21%の生徒にも目を配らせ、全生徒が理解できるような説明や視覚的伝達など学年差がないよう工夫されたい。

また、ゲームやSNS、動画配信の利用について、1~2時間+2時間以上との回答がどの学年も80%を超えている。利用内容や利用ルールについて、学校と家庭で共通理解を図ることも課題として検討されたい。

本年度はコロナの感染状況や社会状況を察知しつつ、可能な限り教育活動を進めてきたことが何よりも大きな成果である。

<総合所見>

校長の経営方針のもと、生徒の言語活動の充実を目指して、演劇的手法やNIEタイム、新聞を活用した学習活動やICTを活用した学習活動等、深い学びの視点に立った授業の展開により、コミュニケーション能力、思考力、判断力、表現力など課題解決能力の伸長に努めている。また、本年度も教育課程全体を見通し、各教科で横断的な授業などで生徒の力を着実に育てている。

今後とも、地域と共に子どもを育てる船橋希望学舎・船橋希望中学校として、様々な工夫改善をもとに、さらなる教育活動の発展を目指し歩んでいくことを、心より祈念いたします。

<学校関係者評価委員>

委員長 木野村 雅子
委員 加藤 伸昭
委員 阿部 由岐子
委員 宮幸 朱美
委員 加茂 晶子

(事務局)

副校長 中澤 浩晃
主幹教諭 宮内 将之